

次の文章を読んで、後の問い(問一〜十二)に答えよ。(解答番号 26 ～ 40)

情報の整理と選択

現代社会が提供するモノや情報は、今後ますます増えるに違いない。逆に制限されたりすれば、そのことの弊害も大きい。提供されるモノや情報が必ずしも吟味されたものであるとは限らないのだから、消費者が選択力を磨いていくしかない。しかし、選択は容易ではなく、ときに自らの決断を放棄して、結果として溢れるモノや情報に流されることにもなる。

そこで、情報を整理してくれる機関や企業が重宝される。自ら情報を収集して分析し、何が一番適切かを判断し選ぶ作業は、個人にとっては非常に負担が大きいので、それを他者に委ねることになる。すでに企業の格付けをするムーディーズのような会社が存在するが、これもボウダイン企業の情報、投資家に代わって整理、提供する企業である。

インターネットの普及は、やがてさまざまな分野での格付けを可能にするかもしれない。医療なら、ある情報提供ネットの会員になっていれば、たとえば何らかの身体症状を認めた時に、その情報と地域から検索すれば、格付けされた病院と医師の名前のリストがずらりと提供される。車を買う時にも、ボディタイプ(車種)、駆動方式(4WDなど)、乗車定員、価格帯、燃費などの情報を入力すると、希望の車を絞り込める。最後に選ぶのは利用者であるが、格付けの信頼度が高ければ決断はしやすくなるだろう。

もちろん、情報を整理するといっても、利用者の意思を決定付けるほどの信頼に値する情報をきちんとそろえることができるかどうかが問題になる。会社にしても病院にしても、すべての情報を提供してくれるかどうか分からない以上、自らの目で確かめた情報に基づいて分析する必要がある。時に週刊誌などに、よい病院のリストが載ることがあるが、格付けの基準がどうしても一義的になりがちで、情報としてはまだまだ不十分だろう。またよい格付けを得るために対象者による裏工作がなされたりすれば、それは何の意味も持たなくなる。その信頼度によっては、格付け会社の格付けが必要になってしまう。もちろん信頼できるのであれば、たとえ高額の会費を払っても手に入れる価値を持つことになる。

マニュアルの普及

情報が複雑化し錯綜すれば、対応の手順を示したマニュアルが氾濫することになる。その時々状況に応じて、その都度一から考えて判断していくのでは効率が悪いし、対応のばらつきも多くなるのでマニュアルが必要になる。地震のような災害発生時には、多くの人がジンソクに動くことが求められるため、共有のマニュアルは有効である。もちろんそれが普段から熟知され、また訓練などを通して活用されていないと、いざというときに役に立たない。

ファーストフード店などでは、アルバイト店員に接客マニュアルを覚えさせる。これは、従業員の質を一定に保つためには有効であろうが、はたして客がその対応に満足しているかと問えば、疑問も多いだろう。あまりに拘子定規な受け答えに、寒々しい印象を抱く人もいる。しかし、質の悪い対応をされることに較べれば店側も安心なのである。マニュアルなどではなく、相手に応じて昔ながらの世間話を交わすような小売店は効率が悪いのかもしれないが、本来顔と顔のつながりは客商売の基本であるはずだ。接客マニュアルの出現は、そうした店ごとの客商売のキが、クに取って代わられているというこの証左だろう。(……略……)

訴訟社会

情報化社会の必然として、マニュアルの普及と並び、訴訟社会の到来が挙げられる。これだけ情報が溢れる社会では、逆に可能性のあるすべての情報が網羅されていないと用をなさない。消費者が不注意な商品を買ってしまった場合、それを自分の選択の失敗や使い方の問題と認めることができず、その商品を提供する会社の責任と考える。カッターナイフで自傷行為をする思春期の子どもが増えているが、たとえばその製品の注意書きに「物を切ることを以外の目的に使用しないで下さい」という一文がないことを理由に訴えられる。そういう類の問題である。

確かに、ある食品に危険な添加物が使用されていることが意図的に隠されていれば、訴えられて当然である。そうしたインペイの危険性はいつもあって、それが露見して新聞紙上を賑わせる事件が絶えない。ところが、使用目的に関しては製造者の意図や想像力を超えたことも起こり得る。このような曖昧な領域では、あらゆる可能性を考えたいですべてを表示することは難しいのだが、それでも十分な情報が知らされていない、なかつたということに訴訟につながることもある。

二〇〇二年七月、アメリカのシーザー・バーバーさんは、何十年にもわたってファーストフードを食べ続け、「太りすぎて心臓病や糖尿病

を患ったのはファーストフードのせいだ」として、ファーストフード四社に対して損害賠償訴訟を起こした。同じように、二〇〇二年八月、ニューヨークのゼズリン・ブラドリーさんから八人が、「肥満や糖尿病になったのはハンバーガーの食べ過ぎが原因で、マクドナルドは危険性を消費者に警告する義務を怠った」と米マクドナルド社を訴えた。さすがに、これらの訴訟は自己責任の問題として却下^シされたが、今や消費者にすべての情報が知らされていたか否かが問われる時代なのである。

前述の訴訟は、常識的に考えれば、別にファーストフードでなくても、脂肪の多い食品を摂取し続ければ太る可能性が高いことは誰にでも分かりそうである。もしそれで病気になったとしたら、表示のあるなしにかかわらず自ら摂取を控えればいいのだ。あるいは、「**C**」^ス、肥満覚悟でファーストフードを食べ続けるという選択もある。いずれにせよ製品の問題やメーカーの表示責任ではなく、食べる側の自己責任ではないかと思うのだが、はたしてアメリカ社会ではそれがどこまで通用するのだろうか。日本もアメリカ追従であるから、やがて訴訟社会になるだろう。現在進行中の司法制度改革案に拠^より、日本では二〇一八年ごろまでに法曹関係者(特に弁護士)を増やす流れになった。現行では弁護士の絶対数が不足しており、裁判に時間がかかりすぎるという問題がきっかけになったのだが、弁護士が増えれば、当然訴訟も増えるに違いない。(……略……)

アメリカの訴訟に関する報道をみると、ゲーム的な色彩を帯びているように思える。

日本では、今はまだ裁判で物事の真実が明らかになるのではないかという期待が残っているが、やがてそれが幻想であることに気付くだろう。訴訟社会が行き着くところは、物事の真実を明らかにすることではなく、どちらが勝つかというゲームの世界なのである。

人が自ら判断し選択し決断していくことの困難さが、この情報化社会において選択を人に委ねたり、安直なマニュアルを生んだり、さらには決断の責任を自分では引き受けられず、時に過剰な訴訟に発展していくなどの状況を生み出すのである。これは情報化社会がかかえる必然として、受け入れていくべきことなのだろうか。先行するアメリカ社会の繁栄、それと表裏を成す病理を見る時、日本社会も立ち止まって考える必要があるように思う。少なくとも、苦しくても自らが決めることを放棄した結末が、いい方向に向かうとは思えない。

(清家洋二『決められない!』による。出題にあたり、一部を省略した。)

問一 傍線部ア、シと同じ読み方のものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 26 ～ 27。

ア

26 重|宝

① 重|税を課す
② 職務の重|圧
③ 厳重|に注意する
④ 丁重|にもてなす

シ

27 却|下

① 自分を卑|下する
② 言|下に断る
③ 下|劣な考え
④ 相場|が下落する

問二 傍線部イ、オ、サに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 28 ～ 30。

イ

ボウ|ダイ

28

① ソボウ|な言動
② 政敵のボウ|リヤクにかかる
③ 腹部がボウ|マンする
④ なりゆきをボウ|カンする

オ

ジン|ソク

29

① サツソク|返事した
② ソク|ザに答える
③ 議会運営のテツソク|
④ 戦乱がシユウソク|する

サ

イン|ペイ

30

① ヘイ|サ的な社会
② シャヘイ|された空間
③ 言い方にゴヘイ|がある
④ 二種類の薬をヘイ|ヨウする

問三 傍線部「ウ」認めた」とあるが、ここでの「認」に意味が最も近いものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ウ 認めた
- ① 容認
 - ② 認証
 - ③ 公認
 - ④ 認識

問四 傍線部「工、カ」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 32。

33。

工 氾濫する

32

- ① くまなく行きわたる
- ② 広がってはびこる
- ③ 万人にもてはやされる
- ④ 多方面から注目される

カ 杓子定規

33

- ① 愛想がなく無表情なこと
- ② 一定の基準ですべてを処理すること
- ③ 商売つ気が強く押しつけがましいこと
- ④ 実際よりも良く見せようとする事

問五 空欄キ、クを補うのに最も適当な語句の組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① キー奪い合い クー穏便
- ② キー正攻法 クー疑問
- ③ キー持ち味 クー効率
- ④ キー手掛かり クー満足

問六 傍線部ケ「到来」と熟語の構造が同じものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ケ 到来 ① 祈念 ② 握手 ③ 詳述 ④ 愛憎

問七 傍線部コ「不本意」とあるが、冒頭に「不」を付けて熟語を作らないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- コ 不本意 ① 案内 ② 常識 ③ 見識 ④ 手際

問八 傍線部A「格付け会社の格付け」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

① 消費者が病院や自動車を選ぶ際に自分で情報を集めて「格付け」するのは難しいので、参考になる専門家の意見や情報を「格付け会社」を通して収集すること。

② 自分の症状に適応する病院を選択するには専門的な知識を要するため、週刊誌のリストよりは「格付け会社」による「格付け」のほうが信頼できるといふこと。

③ 自分で収集する情報では不十分な場合、「格付け会社」に情報の分析と判断を依頼したうえで、最終的には提供された情報を自分の目で確かめて「格付け」すること。

④ さまざまな分野で利用者が選択しやすいよう情報を整理してくれる「格付け会社」について、さらに、その中でどの会社が信頼できるかを「格付け」すること。

問九 傍線部B「このような曖昧な領域」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 製造者にとって、ある製品が消費者にどのように使用されるかを、どれくらい範囲まで想定すべきかが明確ではないということ。
- ② 製造者にとって、ある製品に使用している原料や添加物が消費者にどれくらいの影響を及ぼすかは、明示したくないということ。
- ③ 消費者にとって、ある製品における本来の使用目的を超えてどの程度まで応用的に使用してもよいかは、明らかでないということ。
- ④ 消費者にとって、ある製品の注意書きに記されている使用上の注意は表現がわかりづらく、明快とはいえないということ。

問十 空欄Cには後の傍線部ス「肥満覚悟でファーストフードを食べ続ける」の比喩となる表現が入る。これを補うのに最も適当な語句を、次の

①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 39。

- ① 容器に水を注ぎ続けても決して容量を超えることがないように
- ② 人格者が他人に対するよりもむしろ自己を厳しく律するように
- ③ 砂漠の生き物が乏しい栄養でも自分の生命を維持できるように
- ④ 愛煙家がタバコには害があると分かっているながら吸うように

問十一 本文全体を通して、筆者の主張はどのようなものだと考えられるか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

40。

- ① 現代のように情報が溢れる社会においては、企業側は可能性のあるすべての情報を効率的に提供できるよう、また利用者は情報を網羅できるような努力を怠ってはならない。
- ② 社会の情報化は往々にして企業側に有利にはたらく場合があるため、消費者は格付けサイトやマニュアル、時には訴訟といった手段を用いて真実かどうかを判断しなければならない。
- ③ 大量の情報の中から自分で適切なものを選択するのは困難なことだが、その作業を他人まかせにするのではなく、自ら情報を判断し決断する姿勢を放棄してはならない。
- ④ 日本は弁護士が不足しており訴訟が十分に機能していないが、消費者が製造者よりも不利にならないように、アメリカにならって制度を発展させなければならない。